

令和6年度 綾町立綾小学校 自己評価書

教育目標	綾愛を育てる学校を目指す。
経営理念	綾愛を、知・徳・体・ふるさと教育・特別支援教育の五つの分野から育てていく。

4段階評価【 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する 】

本年度の 重点目標	努力事項及び具体的取組	評価項目	自己評価			結果の考察・分析及び改善策	学校運営協議会の評価	
			職員	保護者	児童		意見等	
分かる・できるの実現と基礎学力の向上	多様な学習の進め方及びICTを活用、多様な学習の進め方の研究とICTを効果的に活用した授業づくり	授業にICT機器の活用を図り、分かる・できる授業づくりを行っている。	3.3	2.9	3.4	各種学力調査から児童の実態を把握・分析し、対策を話し合い、実践してきた。日々の授業において、電子黒板を活用し、拡大された教科書の提示や授業に関連する画像や動画を提示することで、理解が深まるように指導を行った。児童用タブレットにも慣れ、活用が図られてきた。児童の自己評価が、3.0以上で、ある程度学習への自信が感じられるため、今後も、様々な手立てをさらに充実させていきたいと考えている。	3.2	先生方の日々の工夫・改善・努力に感謝いたします。読書活動との関連もあると思いますが、「読む」「書く」という基礎の部分がより充実してくると良いかと思います。文字の丁寧さや筆順等が気になります。ICT活用が十分に図れていると感じる。ほとんどの項目で職員（先生方）と児童の評価が同じでということは目標に向かって同じ方向を向いているようで、今後とも保護者と共になんばっていただきたい。綾愛が育ってきていることは喜ばしい。ICT活用になれてきた頃で、生徒さんに新たな悩みが出てくるのかなと思いましたが、児童の評価は高く、ひとえに先生方が、たくさんの工夫を重ねてくれたのだと感じた。多様な子ども一人一人が「分かる」「できる」景観をするためにこれからもICT活用方法について模索していただく。教師の手立てを工夫し、タブレットを活用した授業改善がさらに進むように取り組んでほしい。ICT活用の学習については、児童達の理解ができてるように伺えます。その調子で、指導をお願いします。ICTを活用した学習が増え、先生方のたいへんさはあると思いますが、子ども達がより興味を持って学習に向き合ってくれば良いと思う。児童一人一人が目的を持ち、学習意欲が継続し楽しい授業ができるよう校内研修の充実を今後も期待したい。
	授業づくり「めあて」と「まとめ」の整合性と習熟の時間確保を意識した授業づくり	児童の学習意欲を高める工夫をしている。	3.2	3.0	3.4	初期研修や校内OJTを通して、互いの授業を見合う機会をとるようにすることで、授業の工夫・改善を行ってきた。本年度は、単元内自由進度学習を取り入れ、児童の学びに向かう意欲の向上を図ってきた。また、「まなびの時間」での習熟の時間を確保することに取り組んできた。	3.2	先生方同士のお互いの学びや気付きも加わって、相乗効果が生まれていると思います。単元内自由進度学習を取り入れるなど、がんばっていらっしゃるのが伝わってきます。『自由進度学習』では、児童の学習意欲が高まり、積極的に取り組めるようになる反面、低学力層の児童への対応等の課題があると思うが、次年度の更なる充実を期待したい。初期研修や校内OJTの充実により、教師間の学び合い、教え合いで授業レベルのアップを目指してほしい。
	読書活動の推進読める力向上のため、読書活動の推進	読書習慣の定着を図るため、各児童へ学期ごとの目標を設定させている。	2.9	2.3	2.9	毎月一回の「読書の日」の取組を通して、家庭との連携を図った読書推奨を行ってきた。また、11月には、読書月間との取組として、読書祭りを企画し、積極的な図書室利用を推奨してきた。金曜日は、1・2年生に地域ボランティアの方の「読み聞かせ」を実施し、本に対する興味関心を高めていくことができた。	2.8	本に対する興味を引き続き高めていただきたい。全目標の中で、最も評価が低いですが、特に保護者からの評価が低いと感じられるのであれば、児童の意欲向上部分が伝わっていないのかもかもしれない。と感じました。生徒と一緒にアイデアを出し合うのも良いかと思いました。全く問題ありません。素晴らしい取組だと思います。本を通して何を学び、何にワクワクし、何に癒やされ、何に元気をもらったのかその内容を知りたいです。保護者の評価が、全体で最も低い。家庭での読書週間の定着がむしろいいのが分かる。SNS等の影響が大きいと思う。親が読書をする家庭は子どもも読書をしています。根気強き長い取組が必要だと思います。読書が好き、きらいと感じる児童の個人差が大きく、家庭との連携を図った読書推奨を更に強化してほしい。
生徒指導の徹底を通して豊かな人間性の育成	命を守る教育自分を愛【大切に思い行動】するために、まず、「自分の命は自分で守る」ことを徹底	自分の命を守る、大切にすることや自尊心や自己肯定感（「自分には良いところがある」と感じていること）及び他者を思いやる心を育成するための指導を行っている。	3.2	3.1	3.7	日常において、「命」を大切にすることを学校・地域・保護者の協力のもと、子ども達に伝えている。このことから、児童の評価からは「命を守る」ことについて、日頃から意識していることがうかがえる。今後、家庭においても「命を守る教育」について、どのようなことができるのかPTAと共に考えていくとより効果的である。	3.4	家庭の教育力の低下が言われて久しい中、続もそうかと思います。PTAと連携して、家庭教育学級の充実など、家庭に対する地道な働きかけが今後ますます必要になって行くと思います。命を守る取組は非常に大事なことであり、地域ぐるみでの取組が必要と思う。たいへん素晴らしい取組だと思います。児童の評価が、全ての項目で最も高い評価になっている。より実践ができるように取り組んでほしい。保護者の評価が低めなのが残念ですが、児童の評価は高いので先生方の指導はしっかり届いているのだと思います。「命を守る教育」の充実を図るためには、学校・地域・保護者がともに連携していく必要がある。
	基本的な生活習慣の徹底基本的な生活習慣の徹底のため、あいさつ運動を推進	日常的に、あいさつができるような指導を行っている。	3.2	3.1	3.4	学校において、あいさつを積極的に行うための工夫を行ってきた。行事等を通して、高学年によるあいさつ運動を実施するなどにより、児童のあいさつも良くなっていると感じる。地域でのあいさつ・家庭でのあいさつが昨年度より、良くなってきていると感じる。今後、保護者や地域との連携も図りながら、あいさつをさらに盛り上げ、規範意識の高い児童を育てたい。	3.1	登校中のあいさつはあまり良くない。地域ですれ違うときも生徒さんの方から、あいさつをしてくださっています。心地よさや安心感を感じると同時に、大人の方からも積極的にあいさつをすることが大切と感じました。あいさつに関しては、これからも積極的に声をかけていきたいと思いました。家庭や地域であいさつが良くなっているのは、よいことである。さらによくなるように取り組んでほしい。子どもの評価が高いと言うことは、それだけ意識して取り組んでいると言うことだと思います。学校・地域・保護者がともに連携した「あいさつ運動」の推進を第一に掲げて取り組んでいただきたい。
	道徳科を中心とした豊かな人間性の醸成認め、褒め、支え、鍛え、道徳科の授業実践に取り組んでいる。	認め、褒め、支え、鍛え、道徳科の授業実践に取り組んでいる。	3.1	3.3	3.3	・昨年同様、保護者・児童の「思いやりの心をもって接している」ことに対しある程度評価されている。日常の様子からも思いやりのある言動が多く見られている。 ・教職員が評価した道徳の授業については、十分とは言えないという評価であったが、授業改善を図りながら、豊かな人間性育成のために、自分の考えを深め、互いの違いを認め合えるような授業を構築していきたい。	3.0	道徳科はすぐに効果が出るという訳ではないので、繰り返し、道徳科の授業を行っていただければ、いつかはその場面に遭遇したときに育っていくのだと思いますので、やっていただけるだけで大変ありがたいです。あいさつと同時に感謝の言葉や、認めたり褒めたりする言葉も日常生活の中にあふれと、暖かさ（愛）が伝染していくと思います。思いやりのある言動が多く見られるのは嬉しいです。きっと先生方が、愛や思いやりの言葉を使っているのだらうと想像します。子どもは大人を手本とし、真似ますから。日々、授業改善を図りながら、より充実した道徳教育の推進を期待したい。

